

山形県

発掘調査速報会

2018



日時:平成 31 年 3 月 17 日(日)
13:00~16:10(開場 12:00)
会場:山形市民会館 小ホール

【主催】山形県教育委員会
【共催】山形市教育委員会 寒河江市教育委員会 南陽市教育委員会
大江町教育委員会 大石田町教育委員会
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

平成30年度 山形県発掘調査速報会2018

主催 山形県教育委員会

共催 山形市教育委員会、寒河江市教育委員会、南陽市教育委員会

大江町教育委員会、大石田町教育委員会、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

日時 平成31年3月17日(日) 13:00～

会場 山形市民会館 小ホール

- 次第**
- 12:00 開 場
 - 13:00 開会の挨拶
 - 13:05 平成30年度の県内の発掘調査の概要について
(山形県教育庁文化財・生涯学習課)
 - 13:15 報告① 史跡山形城跡(二ノ丸)
(山形市教育委員会)
 - 13:35 報告② 史跡慈恩寺旧境内関連遺跡(上の寺遺跡)
(寒河江市教育委員会)
 - 13:55 報告③ 史跡左沢楯山城跡
(大江町教育委員会)
 - 14:15 報告④ 長岡南森遺跡(大型古墳推定地)
(南陽市教育委員会)
 - 14:35 休 憩
 - 14:50 報告⑤ 駒籠楯跡(古代「野後駅」推定地)
(大石田町教育委員会)
 - 15:10 報告⑥ 藤島城跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 15:30 報告⑦ 中野目Ⅱ遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 15:50 報告⑧ 川前2遺跡
(山形県埋蔵文化財センター)
 - 16:10 閉 会



平成30年度 報告遺跡一覧

遺跡名	調査回数	所在地	種別	時代	調査面積	調査日程	起回事業
史跡山形城跡(二ノ丸)		山形市	城館跡	近世	600㎡	5月8日～11月29日	山形城跡整備事業
史跡慈恩寺旧境内関連遺跡(上の寺遺跡)	第11次	寒河江市	寺院跡	中世	10㎡	11月15日～11月20日	保存目的の範囲確認
史跡左沢楯山城跡		大江町	城館跡	中世・近世	610㎡	8月1日～11月21日	史跡整備
長岡南森遺跡	第1次	南陽市	古墳ほか	縄文～中世	100㎡	5月7日～6月5日	広域分布調査事業
駒籠楯跡	第14次	大石田町	集落跡 官衙跡 城館跡	縄文 奈良・平安 中世	600㎡	10月2日～10月17日	保存目的の内容確認
藤島城跡	第7次	鶴岡市	城館跡	中世	238㎡	5月28日～7月6日	庄内農業高等学校ライスセンター改築
中野目Ⅱ遺跡	第2次	山形市	集落跡	古墳・平安	3,800㎡	5月21日～11月5日	最上川上流河川改修(須川地区)
川前2遺跡	第5次	山形市	集落跡	古墳 奈良・平安	2,000㎡	6月6日～11月2日	同上

表紙写真 右列上から 史跡慈恩寺旧境内関連遺跡、長岡南森遺跡、藤島城跡、川前2遺跡
左列上から 史跡山形城跡(二ノ丸)、史跡左沢楯山城跡、駒籠楯跡、中野目Ⅱ遺跡

史跡山形城跡 二ノ丸土塁（北東部）

一技巧的な屏風折れ
土塀をもつ城郭一

山形市

山形城の二ノ丸土塁は、園路をより歩きやすいよう改修する事業に伴って、発掘調査を実施しております。平成28年度から3ヶ年の計画で、二ノ丸東大手門から北門に続く部分の調査を継続しており、今年度が最終年となります。

昨年度の調査で、全国的に極めて珍しい屏風折れ土塀の礎石が検出されましたが、今回はその続きが確認されました。屏風折れ土塀とは、折れ曲がりをもつ土塀のことです。土塀には穴が開いており、ここから攻めてきた敵に対し弓や鉄砲で攻撃します。通常の直線的な土塀は正面は狙いやすいですが、左右が死角となります。その欠点を解消したのが、屏風折れ土塀です。折れ曲がる部分からは、左右の敵に対して攻撃することが可能となります。昨年度までの成果と同様に、屏風折れ土塀は2時期あることが確認されました。新しい時期は城の外側（堀側）に折れ曲がる外折れ式で、古い時期は城の内側（本丸側）に折れ曲がる内折れ式の構造です。ただし、今回検出された古い時期の礎石は、後世の攪乱の影響で抜け落ちている部分が多く、折れ曲がりも明瞭

ではありませんでした。

また、過年度調査を行った良櫓と肴町向櫓で、若干の追加調査を行いました。江戸時代の城絵図で確認すると、双方とも2層の瓦葺き櫓が建っています。調査では、瓦葺きを示すように大量の瓦が出土しました。さらに、石垣に使用されている石材の調査を実施したところ、安山岩・花崗岩・流紋岩・デイサイトが用いられ、これらはすべて馬見ヶ崎川流域の産地であることも分かりました。江戸城や大坂城など天下人の城郭とは異なり、領内の近場から産出される石材を用いていることになります。（齋藤 仁）



良櫓（北西部の隅櫓）



肴町向櫓



屏風折れ土塀 新時代の折れ曲がりも明瞭ですが、その左の旧時代は不明確です。

史跡慈恩寺旧境内関連遺跡 (上の寺遺跡)

— 慈恩寺の
中世の姿 —

寒河江市

上の寺遺跡は、慈恩寺に中世期存在した寺院群の跡です。慈恩寺本堂の500～600m東に聞持院跡と伝えられる平場が残り、そこから北東に向かって階段状の平場群が広がります。中世期の慈恩寺を明らかにするため調査を継続し、今回で第11次となります。

上の寺の一角には最初薬師寺がありましたが、正応3年(1290)に虚空蔵菩薩を安置する求聞持堂が併設されたことで聞持院と号しました。江戸時代初頭には荒廃し、寛永13年(1636)に薬師三尊・十二神将像が慈恩寺本堂境内の薬師堂に移されました。上の寺遺跡には中世期、聞持院を中心として院や坊の屋敷があったとみられます。

これまで県教育委員会、埋文センター、市教委で行った調査では12～14世紀の景德鎮・龍泉窯産の磁器片などが出土しており、中世期有力な寺域であったことが見えてきています。また、伝・聞持院跡の土塁横から江戸時代初頭に投棄されたとみられる石塔、その1段下の平場から桁行6間・梁行5間(18.1m×16.4m)の柱穴列なども確認されています。

今回は、遺跡の広がりを把握するために遺跡の周縁と推定される部分2ヶ所を発掘しました。このうち、遺跡の北東部にあたる大堀切の外側で河道跡を検出しました。北西に沢が流れていることから、ここも流域だったと考えられ、上の寺の外縁部と推定されます。河道跡の盛土には中世の遺構・遺物の出土がなく、後世に埋められたものとわかりました。

古代・中世の慈恩寺は鳥羽天皇の御願寺であったことが知られていますが、上の寺遺跡の発掘調査で見つかった遺構や舶来品も大寺院であったことを裏付けています。(保科文俊)



伝・聞持院跡。右の果樹畑も合わせると約2,500㎡の境内地でした。



柱穴列と伝・聞持院跡の平場(調査地の右上)。裏手の山にはゴロビツ楯、南には日和田楯が位置している(平成19・20年度埋文センター調査写真より)。



河道跡。近世以降にここを埋めて整地したことが明らかになりました。

史跡左沢楯山城跡

あてらざわたてやまじょう

—最上川に臨む山城—

大江町

左沢楯山城は、左沢市街地北方で最上川を眼下に見下ろす丘陵に築られました。寒河江の大江時茂三男、元時が正平年間に築城したとされます。天正12年、最上義光の寒河江・谷地攻略により最上氏の支配下に入りますが、元和8年、最上氏の改易に伴い廃城となりました。「左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏等の抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知る上で重要な城跡」として平成21年に国の史跡に指定されました。指定面積は248,511.72㎡、大江町内の城館跡では群を抜いて大きな規模を誇ります。

大江町では、現地を訪れた方が城の構造を体感できるような史跡の整備を目指して発掘調査を実施しています。

なかでも平成23年から実施している第1期整備のための調査では、山頂「八幡座」の櫓とみられる建物跡や、最上川沿いから曲輪群と堀底を通して城内へ至る登城路があった可能性が高いこと、最上氏時代の遺物と遺構などを確認してきました。これらに続く平成30年度の調査は、山頂「八幡座」への散策コースが通るC6・7の平場で実施しました。500㎡弱の調査で、複数の段に分かれる曲輪を造成した跡や、平場の端に沿って柵列状に並ぶ柱穴跡などを確認しました。

また、平成29年度から、第2期整備を目的として、城跡の北東部に位置するC9「寺屋敷上部曲輪」の調査を実施しております。平成30年度までの調査で、曲輪には複数の掘立柱建物があり、少なくとも1回以上の建て替えが行われたことなどがわかってきました。遺物は16～17世紀の中国産磁器片数点などが出土しています。今後は継続して調査を進め、建物のプランや機能、さらに曲輪の性格について検討を進める予定です。

いずれの調査区も、調査成果を活かして城跡の整備を行う予定ですので、整備後はぜひ現地へお越しください。（水戸部泰子）



C6・7では岩盤を削って曲輪が造成されたとみられます。時期により2～3の段差がありました。



C6・7調査区から東へ続く帯曲輪と曲輪群



C9でみつかった掘立柱建物跡を構成する柱穴群

長岡南森遺跡は、宮内扇状地^{みやうち}の東南部、大谷地縁辺に連なる孤丘群のひとつである南森丘陵に立地する縄文時代～中世の遺跡です。南森丘陵の北西 130 m には、県内最大の前方後円墳である稲荷森古墳^{いなりもり}があり、遺跡のある長岡地区は古墳時代前期頃の遺跡や古墳が多く確認されている地域です。

字限図調査や測量調査から南森丘陵が前方後円墳に似ていることが分かり、中世城館が造られたために後円部が崩された古墳である可能性が考えられました。古墳だとすれば全長 161 m 以上の大型古墳です。

確認調査は、遺跡の性格把握を目的とし、特に古墳かどうかの確認を重点に平成 30 年度を第 1 次調査として実施することとしました。調査は、丘陵北半部の西斜面に 2 箇所の特レンチを設けて行いました。

調査では、丘陵の山裾において元々の自然斜面を人工的に水平にカットした幅約 4～5 m の平坦面が巡る状況が確認されました。さらに平坦面の外縁部も同じ様に自然斜面を掘り込み、平坦面外周に低地が広がっていたことが確認されました。低地は古墳であれば周濠^{しゅうごう}や土取跡^{ふきいし}に相当します。葺石^{はにわ}や埴輪は確認されませんでした。



長岡南森遺跡全景（西から）

遺構は、斜面半ばのテラス帯で大型土壇状の遺構が確認されました。古墳時代の祭祀に関連した遺構と考えられます。

遺物は、旧表土に伴う縄文土器と古墳時代の土師器が主に出土しました。低地・平坦面・斜面からは、二重口縁壺、器台、甕、彩色土器や底部に孔をあけた小型土器等も出土しました。大型土壇状遺構からは、多種多様な土器の破片が出土しました。

部分的ですが人工的な造成が確認され、古墳時代の祭祀関連遺物が多いことは遺跡の性格を明らかにするうえで重要であり、今後の調査への期待と課題が明らかとなった調査となりました。（角田朋行）



第 1 トレンチで確認された地形の状況（手前から低地、平坦面、斜面、テラス帯）



第 2 トレンチの斜面裾（平坦面上）で出土した彩色器台

駒籠楯跡は、大石田町の北西部に位置する駒籠集落の南東部にあり、野尻川と最上川の合流点近くの右岸側台地に立地しています。標高は約 66 m で、最上川との比高差は約 12 m を計ります。

検出された主な遺構は掘立柱建物跡とほったてばしらたてものあと 掘立柱建物跡とたてあな 掘立柱建物跡、どこう 大型土壇、ざいもくべいあと 材木塀跡と考えられる溝跡などです。掘立柱建物跡は、主としてきゆうしや 厩舎と考えられる馬小屋とそれに付随した納屋などと思われ、馬小屋は片側に一間分の作業場や通路状の空間が特徴的に配置されました。このような建物跡の集中は、これまでの 3～5 次 (県教委 H 19～H 21) の調査地点にもみられましたが、今回調査された掘立柱建物跡 1 は馬小屋としての一つの典型的な在り方を示すと捉えられ注目されます。

掘立柱建物跡は今回の調査区からは 1 棟確認され、I 期の時期の材木塀跡の溝跡を切って作られていることがわかりました。また、この掘立柱は掘立柱建物跡 5 の柱穴に切られていることから、II 期の建物群の前に位置付けられます。材木塀跡は調査区の西側に沿って長さ 33 m にわたって検出され、調査区内での途切れ (出入口) は見つかりませんでした。塀の主体となる材木 (丸太や半割材等) を埋

め込む基礎 (布掘り) は、大人がやっと入れる幅 (約 40 cm) であり、深さは検出面から約 1 m もありました。秋田県ほったのさく 弘田柵跡の調査例などを参考にすると、「3 m」以上の長さを持った柵木がこの溝に沿って密に立て並べられていたことが推測されます。

遺物のごく少量で、須恵器が 4 点、他に縄文土器 (前期～中期) や石器類が数点出土しているだけです。須恵器は甕類の破片が 2 点、坏や高台付坏の体部片が 1 点で、いずれも小破片のため正確な時期の推定が不可能ですが、奈良時代後半から平安時代初期のものと考えられます。 (阿部明彦)



多くの遺構が検出された調査区。材木塀跡は西側に傾いて伸びています (上が北)。



材木が立ち並んでいたと考えられる塀跡の溝



大半が馬小屋跡と考えられる掘立柱建物跡群

藤島城跡は、月山を源流とする藤島川東側の自然堤防上に立地する城跡です。城跡の時代は中世、様式は平城^{ひらじろ}です。本丸には現在、八幡神社^{まつ}が祀られており、本丸の土塁と水堀の一部が残存しています。ほかの城跡の大部分は学校用地として利用されています。

今回の調査は7次調査になり、調査区は城跡の北西部分（周縁部）に相当します。広く後世の攪乱を受けているものの、これまでの6次に亘る発掘調査成果と同様、中世の遺構・遺物が検出・出土しました。

主な遺構は井戸跡と土坑で、他に柱穴や性格不明遺構などが検出されました。明確な建物の存在は確認できませんでした。

井戸跡は1基確認されました。素掘りの構造で、平面は不整形、断面はV字状を呈しています。長軸は約1.5m、深さは約1.6mを測ります。調査段階では水が湧き出ることはありませんでしたが、形状から井戸跡と判断しました。また、近接する4次調査区の北西部分で井戸跡が多数確認されており、当該地は比較的地下水が豊富であったことが推測されます。

直径1.5m前後の土坑が調査区南側で集中して確認されています。前述した井戸跡同

様、4次調査区の北西部においても多数確認されており、当該地での遺構の密度が高いことが窺^{うかが}われます。

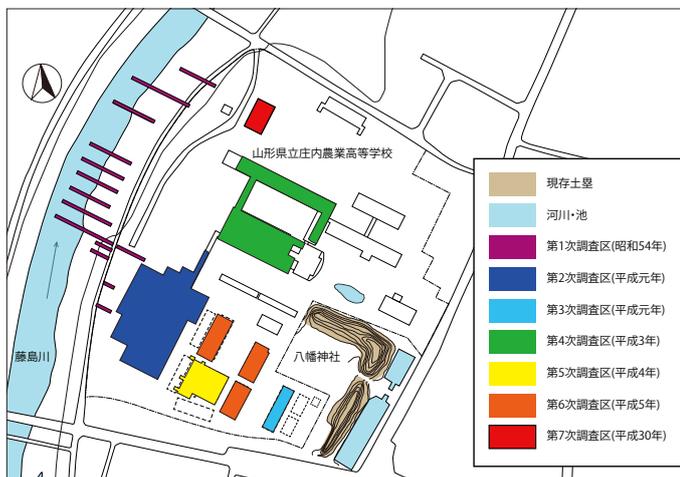
遺物は陶磁器を中心とし、他に石製品（砥石）や金属製品（古銭）が出土しています。出土量は少なく、さらに遺構内出土の遺物も少なく、破片資料のみで全体が把握できる資料は限りなく少ない状態です。

陶磁器は中国産の青磁、国内で生産された瀬戸・美濃^{せとみの}（愛知県・岐阜県）、珠洲^{すず}（石川県）系の陶磁器が出土しています。

今回の調査により、7次調査区南部から4次調査区北西部にかけて、井戸跡や土坑が密集していることが推測されます。（吉田 満）



調査区遠景（上が南）



調査区概要図（縮尺任意）



井戸跡

中野目Ⅱ遺跡は、山形市の北西部、須川^{すかわ}の自然堤防上に立地する集落遺跡です。調査は須川の改修に伴い実施され、今回で第2次調査になります。遺跡では複数回の洪水による堆積が確認され、それにパックされるように古墳時代、平安時代から江戸時代までの痕跡がのこされていました。ここでは、特に重要な発見のあった古墳時代についてみてみましょう。

山形の古墳時代は、本格的な稲作の開始に伴い、たくさんの土地開発が行われた時代です。その開発を支えたのは、従来の木・石製にかわる鉄製の農工具の普及が大きかったと考えられます。集落遺跡から出土するものは少ないものの、古墳からは剣や矢のほか、スコップの刃先なども出土しています。

では、これらの鉄製品を加工する技術は、県内にいつ頃からあったのでしょうか。それを物語る資料として、山形市に所在する大之越古墳^{だいのこし}から出土した鍛冶^{かじ}に使う金鉗^{かなはし}（焼けた鉄をつかむハサミ）があります。この古墳は5世紀の中頃に位置づけられるため、同時期には鍛冶技術が山形にも伝わっていたことがうかがわれます。しかし、鍛冶道具は発見されても、肝心の鍛冶そのものの痕跡をのこす遺跡というものは、6世紀の後半になってからわ

ずかに見られるだけでした。

今回、ST101建物跡とした遺構で発見されたのは、強い熱を受けて変色した床や、鍛冶の際に出る溶けた不純物のかたまり（スラグ）、ふいごからの風を送る粘土製の送風管など、鍛冶の痕跡を明確に示すものでした。これらの出土状況から、この建物は鍛冶工房として機能したもので、ともに出土した土器をみると5世紀前半～中頃のものだと判断できます。よって大之越古墳と同じか、より古い段階で鍛冶技術が伝わっていたことを示す確かな証拠を得たといえます。宮城県や福島県においても同時期に鍛冶の痕跡が発見されはじめるので、これらの地域と大きな時間差なしに山形にも鍛冶技術が伝わっていたと解釈できるでしょう。

今回の調査では、この鍛冶工房も含めて古墳時代の建物跡が3棟発見されました。いずれも多くの土器を伴うもので、小型で丸底の壺や脚付きのうつわを主体とすることから、5世紀の前半～中頃のものだと判断できます。古墳時代は4～6世紀まで続きますが、今回発見の時期の遺跡は、県内では発見されることが少ないため、空白期となっています。今回の調査成果は、この空白を埋める重要な資料となるでしょう。（天本昌希）



調査区全景、中央に須川が流れる。（北から）



鍛冶工房と考えられる ST101 建物跡。

川前2遺跡は、山形市と中山町との市境で、奥羽山系の蔵王連峰に源を発する須川左岸の自然堤防上の微高地に立地し、遺跡周辺には中野目Ⅱ遺跡や上敷免遺跡、達磨寺遺跡など古墳時代や古代の遺跡が多く分布しています。川前2遺跡の調査は平成14・15・19・20年の須川河川改修事業に伴う調査に続いて5次調査となります。

今回の調査では主に、竪穴建物跡、土坑、溝状遺構、柱穴が検出されています。調査区南側で検出された溝状遺構は、調査区外に伸びると想定されるためその全容ははっきりとしないものの、約6.8×6mの方形を呈するものと思われ、その形状から山形県内ではあまり数が確認されていない古墳時代前期の方形周溝墓の可能性があると考えられます。

出土遺物は古墳時代前期と古代を主とし、前者が大半を占めます。前述した方形の溝状遺構からは高坏などの土師器や砥石が出土しています。また、その外側に位置するL字型の溝状遺構からは北陸の影響を受けたと思われる装飾器台が出土していますが、坏部に刻目の入る珍しいもので山形県内ではあまり数が確認されてはいません。これらの遺構の南側に隣接する土坑からは、廃棄されたとみら

れる土師器が多量に出土しており、いずれも古墳時代前期の所産となります。その他、調査区北側からは、口縁部に重四角文が施されている弥生時代中期後半の甕の破片、古代の横瓶や「鬼」と墨書された須恵器坏、石製の紡錘車などが出土しています。

これまでの第1～4次調査では、断続的ではあるものの古墳時代から古代までの長期に渡って営まれた集落跡であることが確認されていますが、今回の調査により、西側にその集落の広がりを確認し、本遺跡では初めて検出された方形周溝墓により新たな集落の様相が見えてきました。（白戸このみ）



調査区全景（南西から撮影）



方形の溝状遺構。内側の溝からは高坏などの土師器が、外側の溝からは装飾器台が出土しています。



溝の南側に位置する土坑からは、廃棄されたとみられる甕など多数の遺物が出土しました。



めもらんだむ

山形の遺跡と日本・世界の歴史

年代	時代	県内の主な遺跡 ●:30年度発表遺跡(主要な時代を示します)		山形の歴史	日本の歴史	世界の歴史	
BC30000年	旧石器時代	上屋地 (飯豊町) 清水西 (村山市) 越中山 (鶴岡市) 小国東山 (小国町)	弓張平B (西川町) お仲間林 (西川町) 金谷原 (寒河江市) 角仁山 (大石田町)	山形県に人が住みつき、県内で産出する良質な頁岩で作られたナイフを使う	日本列島に人が住みつき石器を使って狩猟などをして生活する	原人 旧人 新人	
BC11000年	縄文時代	草創期	日向洞窟 (高島町) 火箱岩洞窟 (高島町) 大立洞窟 (高島町)		隆起線土器を使う人が日向洞窟などで生活を始める	弓矢がつかわれだす 土器づくりがはじまる	
		早期	にひやく寺 (山形市) 北原4 (村山市)	いるかい (尾花沢市) 坂ノ上 (山形市)	堅穴住居による小集落が形成される	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる
		前期	高瀬山 (寒河江市) 押出 (高島町)	小林A (東根市) 吹浦 (遊佐町)	漆を使って文様を描いた土器がつけられる	落葉広葉樹林が広がる 磨石・石皿・凹石が多くなる	トルコ・世界最古の都市 チャタル・ヒュク成立(約6000年)
		中期	西ノ前 (舟形町) 小反 (鮭川村) 空沢 (長井市) 高瀬山 (寒河江市) 花沢a (米沢市)	中川原C (新庄市) 西海淵 (村山市) 西向 (鶴岡市) 熊ノ前 (山形市) 山居 (西川町)	計画的な大集落があらわれる	関東地方に貝塚があらわれる 三内丸山遺跡が繁栄する	どうもろこし栽培のはじまり メキシコ(約5000年)
		後期	北原2 (村山市) 高瀬山 (寒河江市) 川口 (村山市)	小山崎 (遊佐町) かっぱ (最上町) 砂子田 (天童市)	堅穴住居に複式炉が作られる	環状集落が発達する	
		晚期	宮の前 (村山市) 作野 (村山市) 森の原 (村山市)	下叶水 (小国町) 釜淵C (真室川町) 北柳1 (山形市)	集落が減少する 中国製青銅刀がもたらされる	配石遺構がさかんに作られる	楔形文字が使われる(約3500年) ピラミッドが作られる(約2650年) インダス文明がおこる(約2500年) 殷王朝がおこる(約1600年) 孔子生誕(552年) 仏教成立(450年) アレクサンダー大王生誕(356年) 秦王朝がおこる(221年)
AD1年	弥生時代	上竹野 (大蔵村) 百刈田 (南陽市)	生石2 (酒田市) 木壇 (南陽市)	米づくりがはじまる 機織りはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する 邪馬台国が出現(230年頃) 環濠集落の発展 前方後円墳がつくられる 大和の土師器が全国に広まる	光武帝が韓国に金印を授ける(57年) ポンペイが噴火により埋没(79年) 魏呉蜀三國時代(220年)	
300年	古墳時代	畑田 (鶴岡市) 玉作2 (鶴岡市) ●長岡南森 (南陽市) ●川前2 (山形市) ●今塚 (山形市) ●中野目Ⅱ (山形市) 板橋2 (天童市) 西沼田 (天童市) 矢馳A (鶴岡市) 物見台 (中山町) 南原 (高島町) 廻り屋 (白鷹町)	比丘尼平 (米沢市) 天神森古墳 (川西町) 稲荷森古墳 (南陽市) 寶領塚古墳 (米沢市) 菅沢古墳 (山形市) 大之越古墳 (山形市) お花山古墳群 (山形市) 服部・藤治屋敷 (山形市) 梅ノ木 (山形市) 太夫小屋2・3 (川西町) 百刈田 (南陽市) 中里 (米沢市)	鉄製農具がつかわれだす 県内最大の方後円墳がつくられる 東北最大の円墳がつくられる	須恵器がつくられだす	ゲルマン民族大移動(375年) 南北朝時代(439年)	
		飛鳥時代	北目古墳 (高島町) 安久津古墳群 (高島町)	羽山古墳 (高島町) 長手古墳 (米沢市)	湯殿山開山(605) 出羽郡が建郡される(708年) 出羽郡が設けられる(709年) 出羽国が建国される(712年) 出羽郡が秋田村高清水岡に移転する(733年)	聖徳太子撰歌となる(593年) 十七条憲法を制定(604年) 平京城に都をうつす(710年) 東大寺の大仏開眼(752年) 長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年) 坂上田村麻呂が蝦夷を平定 純日本紀ができる(797年) 胆沢城をつくる(802年)	マヤ文明始期(600年) 唐王朝がおこる(618年) 李白・杜甫・楊貴妃らが活躍
600年	奈良時代	二色根古墳 (南陽市) 不動木 (河北町) 壇山古窯跡群 (川西町)	牛森古墳 (米沢市) 木和田窯 (米沢市) 西町田下 (米沢市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年)	将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年)	カール大帝戴冠(800年)	
700年	平安時代	●駒籠桶跡 (大石田町) 北原2 (村山市) 清水 (村山市) 馳上 (米沢市) 八幡西 (川西町) 八反 (東根市) 蟬田 (村山市) 松橋 (村山市) 沼袋 (東根市) 田向2 (村山市) 沼田2 (村山市) 南口A (庄内町) 山田 (鶴岡市) 川前2 (山形市・中山町) 小松原窯 (山形市)	城輪柵 (酒田市) 俄田 (酒田市) 八森 (酒田市) 泉森窯 (酒田市) 山海窯跡群 (酒田市) 大坪 (遊佐町) 下長橋 (遊佐町) 玉作2 (鶴岡市) 的場 (天童市) 蔵増押切 (天童市) 堀端・山ノ上 (長井市) 四ツ塚 (河北町) 三条 (寒河江市) 落衣長者屋敷 (寒河江市) 今塚 (山形市) 三本木窯 (山形市)	鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	将門・純友の乱(935-939年) 藤原氏の全盛(1016年)	高麗王朝がおこる(918年)	
							荘園の成立
800年	鎌倉時代	八幡一 (川西町) 大桶 (遊佐町) ●上の寺 (寒河江市) 執行坂窯 (鶴岡市)	長表 (山形市) 永源寺 (天童市) 七日台 (鶴岡市) 蓮華寺 (鶴岡市)	慈恩寺建立(746年) 出羽国大地震(850年) 立石寺が開山(860年) 鳥海山が噴火する(871年) 最上郡が二分され、最上郡と村山郡になる(886年) 十和田火山の噴火により県内にも火山灰が降る(915年)	中尊寺建立(1105年) 鎌倉に幕府をひらく(1192年) 南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	モンゴル帝国樹立(1206年) マグナカルタ制定(1215年) ダンテが活躍 百年戦争が始まる(1337年) 明王朝がおこる(1368年)	
1200年	室町時代	柳沢A (鶴岡市) 小田島城 (東根市) 八反 (東根市) ●藤島城 (鶴岡市)	高松Ⅱ (寒河江市) 蔵増押切 (天童市) 安中坊 (西川町) 館山北館 (米沢市)	最上義光が最上家第11代当主となる(1570年)	種子島に鉄砲伝来(1543年) 織田信長安土城築城(1576年)	ルネサンス全盛 マゼラン世界一周(1522年) ガリレオが活躍(1564年)	
1400年		安土桃代山	出張坂城 (鶴岡市) ●左沢榎山城 (大江町) 山形城三の丸 (山形市) 稲荷山館 (米沢市)	大宝寺城 (鶴岡市) 白鳥城 (村山市) 米沢城 (米沢市) 亀ヶ崎城 (酒田市)	義光の娘・駒姫処刑される(1595年) 出羽合戦(長谷堂合戦1600年)	豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	東インド会社設立(1602年)
1500年	江戸時代	●山形城 (山形市) 羽州街道 (山形市) 洪江 (山形市) 八幡西 (川西町)	鶴ヶ岡城 (鶴岡市) 三条 (寒河江市) 南台 (長井市) 飛泉寺跡 (小国町) 坂ノ上 (山形市)	最上義光没する(1614年) 最上氏改易(1622年) 上杉鷹山、米沢藩藩主に(1767年)	徳川家康江戸に幕府をひらく(1603年)	清王朝がおこる(1636年) アメリカ独立(1776年) フランス革命(1789年) ナポレオン、フランス皇帝に即位(1804年) リンカーンが活躍(1861年)	
1600年							

